

【白川町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

白川町では、白川町第6次総合計画の基本施策の中で「教育環境の充実」を掲げており、個別的・最適な指導、個性的な学習、協働的な学びを推進していくため、今後の学習活動においても引き続き ICT の利活用に努めていく。

2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に427台のGIGA端末、タブレットの充電保管庫、各小・中学校の主要箇所無線LANルーターを整備した。また、貸出用モバイルWi-Fiルーターを整備し、学校だけでなく家庭学習においても端末の利活用促進に繋がった。これにより、GIGA第1期において、すべての児童生徒に端末が行き渡り、授業内でのICT活用が日常的に行えるようになった。教員もICTを活用した授業を積極的に取り入れ、調べ学習やデジタル教材を使った授業が増加した。

一方、毎日の利用による端末の経年劣化や故障、破損の発生、そのメンテナンスや端末の管理の負担が増加した。また、児童生徒間における情報リテラシーのばらつきが見られ、その差を埋めるべく個別指導やサポートが必要になるなど、端末の利用に係る負担が増加した。

今後は計画的な端末の更新による管理、メンテナンスの負担軽減を図るとともに、児童生徒、教員における情報モラルやICT機器の活用に関する研修をこれまで以上に実施し、児童生徒一人一人の学習ペースやニーズに合わせた個別的・最適な指導を推進していく。

3. 1人1台端末の利活用方策

令和6年度からデジタルドリルを導入した。デジタルドリルでは、単位ごとにテスト機能が備わっており、教員は担当クラス全員の正答率や進捗をリアルタイムで把握できる。また、AIによるデータ管理、分析機能も備わっており、児童生徒毎に得意分野、苦手分野の判断がされるため、より効率的で効果的な学習指導を行うことができる。

現状では、導入当初ということもあり、学校間や教員間で利用状況にばらつきがある。さらなる利用促進のため、教員向けの研修、情報共有の場を設け、白川町全体として活用を推進していく。

また、遠隔授業や翻訳アプリ、生成AIを活用した授業を取り入れることで、不登校児童生徒や外国人児童生徒など様々な児童生徒の実態に応じた支援を推進していく。